



コロナ禍の博物館実習 博物館実習では、毎回実習の成果発表として自分たちでテーマを決めて、特別品収蔵庫での展示を行います。そして、最後にその展示と一緒に記念写真を撮影します。この写真は博物館実習の記録として、通路の掲示板に貼られます。掲示板のスペースから、毎年更新されますが3年間掲示されることになっています。今年の実習は、コロナ禍での実習となり、例年とは違ったカリキュラムとなりました。そして当然ながら集合写真も2020年を象徴する写真となりました。このような写真が続かないことを願っています。 (2020.8.25)

資料紹介 **ドーナツ形の土器** -市毛本郷坪遺跡出土の環状瓶- (名村威彦)

特別展 **虎塚古墳壁画公開40周年** (特別寄稿 ヨスミナミ)

「私的茨城考古学外史-遺跡・人 出会いと別れ-」 第3回 発掘三昧への道 県外編2 (瓦吹 堅)

横穴墓を歩く⑳ **蝦夷穴横穴墓群** (佐久間正明)

ひたちなか市内の発掘調査 **2020**

歴史の小窓㉕ **はんこが押された須恵器**

ひたちなか市の遺跡⑦改訂版 **勝田三中学区編**

のぞき見、展示室① **三反田蜆塚貝塚の土偶**

虎塚古墳花便り㉔ **コスモス**

埋文センターの日々 2020 後期

ほか

ドーナツ形の土器

いちげほんごうつぼ かんじょうへい
—市毛本郷坪遺跡出土の環状瓶—

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

名村 威彦



市毛本郷坪遺跡出土環状瓶

市毛本郷坪遺跡は、ひたちなか市市毛字本郷坪に所在します。平成6年の第6次調査の際、「須恵器の異形土器」が出土し、報告されました。長らく、その正体は不明でしたが、最近、この須恵器が環状瓶であることが判明しました。全国的にも出土数が少ない、不思議な形の須恵器が、なぜ、ひたちなか市でみつかったのか、全国の類例とともに考えてみます。

一、環状瓶とは

古墳時代中期以降、日本列島各地で製作された須恵器の中に、特異な形態をもつものがある。これらは「特殊須恵器」や「異形須恵器」と呼ばれ、環状瓶もその一つである。

環状瓶は、胴部をドーナツのような環状に作り、注ぎ口を取り付けた容器で、縦型と横型がある（図一）。縦型環状瓶には、脚台部をもつ例があり、横型環状瓶には鳥脚をもつ例があるなど、形態は多様であるが、環状の胴部をもつ容器をすべて環状瓶と呼ぶ。

環状瓶の起源は、韓半島でみつかると、環状土器とされる（河瀬一九八五）。韓半島の環状土器は、朝鮮三国時代に製作された軟質土器で、横型環状瓶と同様の形態をしている。詳細な製作時期は不明であるが、三・四世紀頃のものと考えられる。一方、日本列島の環状瓶は、現在のところ、遡っても六世紀末の例が最も古い。形態も、縦型環状瓶の製作が先行する。製作時期の懸隔や、器形の違いから、韓半島の環状土器と日本列島の環状瓶の関連性は、まだ明らかではない。

日本列島の環状瓶のうち、六世紀末から七世紀代の縦型環状瓶は、広島県の古墳から集中的に出土する。このことから、環状瓶は、製作地域の限られた、地域色の強い古墳の副葬品と考えられたこともあった（野末一九九五）。しかし、近年、新たな出土例や環状瓶と判明した例が増

加している。出土地域も広がり、製作地も全国的に確認できる。

事例の増加とともに、日本列島でも横型環状瓶が製作されたことや、環状瓶の製作が八世紀代まで続く事が明らかになってきている（青木ほか二〇一四）。ところが、七世紀後半以降の環状瓶については、各地で出土するものの、窯跡からの出土が多い。消費遺跡の様相がほとんど判明しておらず、環状瓶がどのように使用され、なんのために作られたのかといった点については判然としない。



1：（伝）丁田南古墳群 2：阿婆田窯跡群

図1 縦型環状瓶（右）と横型環状瓶（左）

新段階

中段階

古段階



5 南砺市埋蔵文化財センター提供

4 静岡県埋蔵文化財センター提供

3 広島大学考古学研究室提供

2 公益財団法人
広島市文化財団文化財課提供

1 名古屋市博物館提供

無文

沈線 + 波状文

突線 + 列点文



方形

隅丸方形

円形

1 : 名古屋市博物館所蔵

2 : 上ヶ原遺跡

3 : (伝) 丁田南古墳群

図2 縦型環状瓶の変遷

二、環状瓶の変遷

環状瓶は、六世紀末から八世紀まで長期間にわたって製作されるなかで、文様や形態が変化していった。とくに縦型環状瓶は、文様構成と胴部断面形が段階的に変化している。共存遺物によって製作時期が推定できる例を並べると、文様構成は、①突線と列点文が施されるものから、②沈線と波状文が施されるものへ変化し、③無文のものがあらわれる。胴部断面形は、①円形・楕円形から②隅丸方形に変化し、③方形へと変化する。

文様構成と胴部断面形の変化はいずれも漸次的であるが、概ね一致する。そこで①を古段階、②を中段階、③を新段階としておく(図二)。

古段階の縦型環状瓶には、肩部にボタン状の粘土が貼り付けられる例があり、製作当初から痕跡器官化した把手が表現される。このことから、縦型環状瓶が、提瓶の変種として製作され、その後、独自の变化を遂げたことがわかる。

古段階から中段階の縦型環状瓶は、胴部に緻密な文様が施される。中段階では、把手の名残を方形にケズリ出し、装飾化したものもある。一方、造形の難しさから亀裂が入り、容器として使用できないものも、成品にされる。つまり、古段階から中段階は、実用性よりもむしろ、稜を持たない環状の胴部と精緻な施文をもつ特殊な須恵器という、外見的な要素が重視されたと推察できる。これに対し、新段階では、ほとん

ど文様が施されず、胴部も、製作段階での破損を防ぐ製作方法が採用される。容器の実用性を重視したことを反映しているであろう。

三、市毛本郷坪遺跡の環状瓶

市毛本郷坪遺跡は、ひたちなか市市毛字本郷坪地内に所在する。那珂川を南に臨む台地の縁辺部から、やや奥まった標高約二六mの平坦部に位置している。昭和五十五年(一九八〇年)度まで、九次の調査が実施されており、古墳時代や奈良・平安時代の住居跡のほか、溝状遺構などが確認されている。

胴部下位から脚台部にかけての縦型環状瓶の破片が、第六次調査で出土した。調査は住宅建設に伴うトレンチ調査で、溝状遺構一条と土坑一基が検出された(鴨志田・小松崎一九九五)。調査範囲は狭く、遺跡の規模や時期は不明である。

環状瓶は、溝状遺構が確認された、第二号トレンチから出土した。残存高三・六cm、残存胴部幅五・五cm、推定胴部径一六・〇cmである。色調は外面が暗赤色で、内面が灰オリーブ色である。焼成は硬質で、胎土に少量の白色礫と、多量の白色砂粒を含む。胎土の観察では、茨城県内の窯跡の製品ではなく、搬入品の可能性が高いとされる(稲田二〇二〇)。外側面には二条の沈線と波状文、胴部には一条の波状文と、その両側に列点文が施されている。胴部断面形は、

稜のある方形と考えられる。

文様構成と胴部断面形から、中段階から新段階にかけての環状瓶であり、製作時期は七世紀末から八世初頭と推定できる。

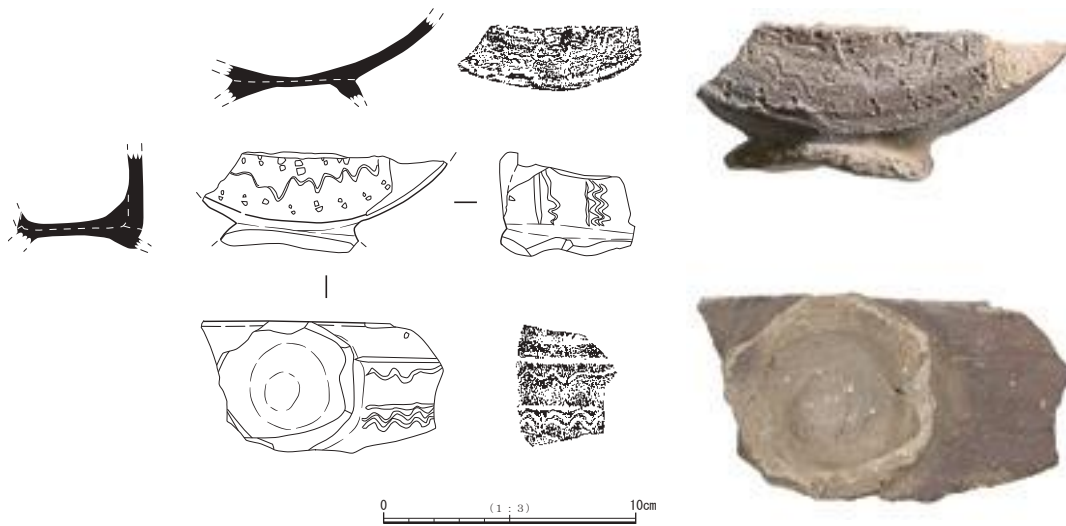


図3 市毛本郷坪遺跡出土環状瓶 (稲田 2020)

四、環状瓶の搬入とその背景

市毛本郷坪遺跡の調査は部分的であるため、環状瓶が搬入された背景について検討することは難しい。そこで、他の遺跡との比較検討から迫ってみたい。まず、類例が出土した、前原遺跡および篠場瓦窯跡の環状瓶と比較し、生産地の推定を試みる。

前原遺跡・・・茨城県日立市久慈町一丁目に所在する。久慈川左岸、標高約三〇mの低位段丘上縁辺に位置する。昭和四〇年代の河道付け替え以前は、遺跡南方の眼下を久慈川が流れていた(猪狩・片平二〇二〇)。

試掘調査で検出された、竪穴建物の覆土から、環状瓶の胴部破片が出土した(図四)。残存高七・〇cm、残存胴部幅六・〇cm、推定胴部径十八・六cmである。色調は外面が暗灰褐色、内面が灰褐色である。焼成は堅緻で、胎土に少量の白色礫と、白色および褐色砂粒を多量に含むほか、黒色微粒も認められる。胎土は市毛本郷坪遺跡の環状瓶と類似しており、搬入品と推定できる。外面に沈線と波状文が施される。胴部には、沈線とわ



日立市郷土博物館提供

図4 前原遺跡出土環状瓶

と、白色および褐色砂粒を多量に含むほか、黒色微粒も認められる。胎土は市毛本郷坪遺跡の環状瓶と類似しており、搬入品と推定できる。外面に沈線と波状文が施される。胴部には、沈線とわ



静岡県埋蔵文化財センター所蔵

図5 篠場瓦窯跡出土環状瓶

ずかに波状文が確認できる。胴部断面形は稜のある方形である。

文様構成と胴部断面形から、中段階から新段階にかけての環状瓶であり、製作時期は七世紀末から八世初頭と推定できる。

篠場瓦窯跡・・・静岡県浜松市浜北区根堅に所在する。天竜川によって運ばれた砂礫が堆積する扇状地の扇頂部に形成された、下位段丘の段丘崖に築かれた窯跡である(武田二〇一三)。

縦型環状瓶が、一号窯の灰原から出土した(図五)。高三一・四cm、胴部幅五・八cm、胴部径二一・四cmである。色調は内外面ともに灰黄色である。焼成は硬質で、胎土に少量の白色礫と多量の白色砂粒を含み、表面に黒色微粒が確認できる。外側面と胴部に波状文が施される。胴部断面形は稜のある方形である。

文様構成と胴部断面形から、中段階から新段階にかけての環状瓶である。製作時期は共伴遺物から八世紀前半と考えられる。

茨城県内で出土した環状瓶は、いずれも搬入品で、共通点が多く、同じ地域での製作が推定できる。その製作地域として想定されるのが静岡県西部地域である。静岡県西部の湖西窯跡群で生産された須恵器は、七世紀中ごろから八世紀前半にかけて流通圏を大きく広げ、東日本太平洋沿岸に飛び石的に流入しており、茨城県でも太平洋沿岸部から出土する（後藤二〇一五）。茨城県内出土の環状瓶の製作時期は、流通圏拡大の時期に該当する。篠場瓦窯跡は、湖西窯跡群には含まれないが、静岡県西部地域で環状瓶が製作された可能性を想起させる。

次に遺跡間の比較から、搬入背景を探りたい。環状瓶は現在、九州から、東北まで確認されている（図六）。古墳・横穴墓や祭祀遺構、窯跡から出土しており、広範な地域で環状瓶が生産・使用された。

市毛本郷坪遺跡と同時期の環状瓶については、詳細の明らかな消費遺跡からの出土は少ない。一方、窯跡からの出土例は、比較的多く、共伴遺物から搬入先が推定できる例もある。まず、消費遺跡の性格を概観する。

牛頸本堂遺跡群・・福岡県大野城市上大利に所在する。八世紀前半の縦型環状瓶が谷部から出土した。谷部からは墨画・墨書土器や斎串と思われる木製品が出土しており、仏教関連の祭祀に利用された可能性がある（石木ほか二〇〇八）。

荒木遺跡・・兵庫県豊岡市出石町荒木に所在する。八世紀前半頃から九世紀にかけての、整然と並ぶ大型掘立柱建物跡が検出されており、官衙的な色彩の強い集落跡である（藤田編一九九七）。出土状況は不明であるが横型環状瓶が出土した。

矢本横穴墓群・・宮城県東松島市矢本に所在する。総数二〇〇基以上と推定されており、一〇七基が調査、確認されている。造営主体は、近隣の城柵・官衙・集落遺跡である赤井遺跡を形成した人々と考えられている。横型環状瓶が、十一号墓から出土した（佐藤ほか二〇一〇）。

次に、生産遺跡のうち、搬入先の性格が推定できる遺跡を概観する。

白沢三・五号窯跡・・兵庫県加古川市上荘町白沢に所在する。金属器模倣の須恵器や多量の硯が出土しており、官衙や寺院への搬入が想定される（森内・深江一九九九）。横型環状瓶は、須恵器生産関連施設の溝から出土した。

阿婆田窯跡群・・京都府京丹後市大宮町に所在する。横型環状瓶が、葉壺形壺や鉄鉢形鉢と共伴した（森一九九一）。一般的な集落で出土しない須恵器が多く、官衙や寺院への供給が想定される（森一九九〇）。

歌姫西須恵器窯・・奈良県奈良市朱雀に所在する。生産器種に仏教的要素がみられ、寺院や官衙関連施設へ搬入された可能性が指摘される（青木敬ほか二〇一四）。

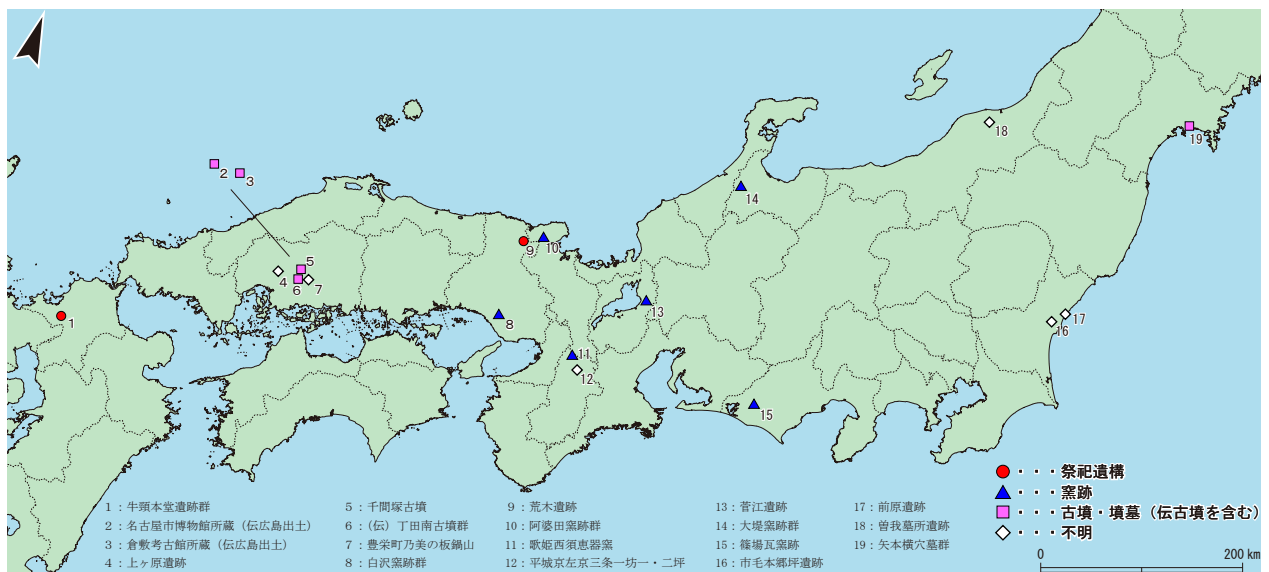


図6 環状瓶出土遺跡

以上の諸例から、八世紀代の環状瓶は寺院あるいは官衙と関連するようである。

では、茨城県内出土例についてはどうか。市毛本郷坪遺跡や前原遺跡の周辺には寺院や官衙は確認されていない。ただ、前原遺跡は久慈川の河口域に、市毛本郷坪遺跡は那珂川流域の台地上に位置し、太平洋沿岸や水運交通の要衝に近いことは注目できる。さらに那珂郡衙と目される台渡里官衙遺跡群が那珂川右岸に、久慈郡寺の可能性が指摘される長者屋敷遺跡が久慈川左岸に位置する(図七)。いずれも市毛本郷坪遺跡、前原遺跡からは約十五kmも離れているため、必ずしも関連性は指摘できない。しかし、環状瓶が寺院や官衙と関連する遺跡で出土すること、七世紀末から八世紀初頭に搬入されたことに注意しておきたい。



図7 環状瓶出土遺跡と官衙関連遺跡 (稲田 2020)

この時期は、古代国府が成立し、地方官衙の再整備が行われた(大橋二〇一八)。郡衙には出先機関が存在し、それらが郡衙から離れた交通の要衝地に設置された可能性もある(山中一九九四)。つまり、七世紀末から八世紀初頭に、郡衙が整備され、交通の要衝地である久慈川河口付近や那珂川の流域に関連施設が作られたとみるのである。そして、その整備において流入した技術や祭祀とともに、祭祀容器として環状瓶も搬入されたのではないだろうか。

(引用・参考文献)

青木 敬・石村 智・小田裕樹・金田明大・神野 恵 二〇一四 『奈良山発掘調査報告Ⅱ』奈良文化財研究所学報第九三冊 国立文化財機構奈良文化財研究所。
猪狩俊哉・片平雅俊 二〇二〇 『前原遺跡の環状瓶』茨城県考古学協会誌 第三号 茨城県考古学協会 七九〜八二頁。
石木秀啓・大里弥生・中島 圭・遠藤 茜 二〇〇八 『牛頭本堂遺跡群Ⅶ』大野城市文化財調査報告書第八一集 大野城市教育委員会。
稲田 健 二〇二〇 『市毛本郷坪遺跡の環状瓶』茨城県考古学協会誌第三号 茨城県考古学協会 八二〜八三頁。
大橋泰夫 二〇一八 『古代国府の成立と国郡制』吉川弘文館。
鴨志田篤二・小松崎千尋 一九九五 『第三章 市毛本郷坪遺跡の調査』平成六年度 市内遺跡発掘調査報告書『ひたちなか市教育委員会』。
河瀬正利 一九八五 『広島県出土の鳥形須恵器』『芸備古墳文化論考』芸備友の会 一〜二六頁。
金 元能・岡崎 敬・柄 三 一九七九 『韓国古代』世界陶磁全集十七 小学館。
後藤健一 二〇一五 『遠江湖西窯跡群の研究』六一書房。
佐藤敏幸・河村真佳・瀧川 涉・関 博光・女鹿潤哉・赤沼英男・手代木美保・片岡太郎・高妻洋成・赤田昌倫・熊谷公男 二〇一〇 『矢本横穴窯群Ⅱ 飛鳥・奈良時代における社殿地方の壺』東松島市文化財調査報告書第七集 宮城県東松島市教育委員会。
武田寛生 二〇一三 『篠塚瓦窯跡』『篠塚瓦窯跡・上海土遺跡』静岡県埋蔵文化財センターI、五六〜四一八頁。
野末浩之 一九九五 『特殊須恵器の種類と特徴』愛知県陶磁資料館学芸課編『古代の造形美 装飾須恵器展』愛知県陶磁資料館 七六頁。
藤田 淳編 一九九七 『砂入遺跡』兵庫県文化財調査報告第六一冊 兵庫県教育委員会。
森内秀造・深江英憲 一九九九 『兵庫県古川市 白沢三・五号窯』兵庫県文化財調査報告第一八四冊 兵庫県教育委員会。
森 正 一九九〇 『阿婆田窯跡群の発掘調査』『京都府埋蔵文化財情報』第三六号 京都府埋蔵文化財調査研究センター、一七〜二二頁。
森 正 一九九一 『阿婆田窯跡群』『京都府埋蔵文化財情報』第四四冊 京都府埋蔵文化財調査研究センター、三三〜三九頁。
山中敏史 一九九四 『古代地方官衙遺跡の研究』塙書房。

歴史の小窓 その二五

はんこが押された須恵器

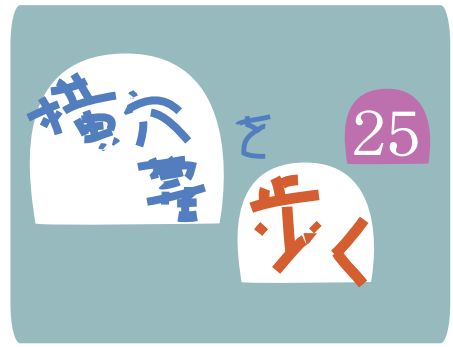


奈良時代前半の須恵器の蓋の内面にポタンの跡・・ではなく、丸いはんこが押されていました。出土したのはひたちなか市鷹ノ巣遺跡第三八号住居跡で、蓋のほか杯の内面にも同様の押印がありました。

須恵器の土が市内の原の寺瓦窯跡の瓦に似ているので、そのあたりで焼かれた製品なのでしょう。焼く前の検印かもしれないませんが、珍しいものです。原の寺瓦窯跡では、これと異なる丸い押印がある瓦が出土していますので、須恵器と瓦の生産が関わることも考えられます。

なお、常陸大宮市の前山瓦窯跡にも丸い押印の瓦があり、出土する瓦の特徴が原の寺瓦窯跡とよく似ています。工人が移動している可能性もあるのではないのでしょうか。(佐々木義則)

参考文献 田中美零 二〇二〇 『瓦に書かれた文字』『ひたちなか埋文だより』五二、瓦吹堅二〇〇八 『三美前山の瓦Ⅱ』『列島の考古学Ⅱ』



福島県郡山市
蝦夷穴横穴墓群

佐久間 正明
(大安場史跡公園)

滑に仕上げる、構築過程の最終段階の仕上げの痕跡と判断された。

十二号横穴墓は玄門部が残存しておらず、残存する規模は奥行一六〇cm・幅一一五cmを測る。玄室から出土した方頭大刀は、把頭が刀身とは約二〇cm離れた場所に倒立の状態で置かれていた。把頭は分銅形を呈し、微量ながら黒色の漆膜が付着している。

十三号横穴墓は、玄室が奥行二二二cm・幅一七四cm・高さ一四三cmを測る。左側壁近くの床面からは大刀三振が、折り重なる状態で出土し、本来は壁面に立てかけられていた可能性がある。三振の大刀のうち一振からは、鐔の両面と側面、そして鍔・把縁金具に象嵌が確認された。ハート形の心葉文を描き、その内部に細線を充填するデザインである。福島県内で出土した古墳時代の象嵌大刀は二十数例知られているが、一振の鐔・鍔・把縁金具いずれにも象嵌が確認されたものは少なく、県内有数の資料と言える。

十三号横穴墓は閉塞石も特徴的で、玄室側には横穴が掘り込まれた基盤岩と同じ凝灰岩が、外側には基盤岩とは異なる花崗岩が積まれていた。

蝦夷穴横穴墓群が位置する郡山市南東部では、阿武隈川の支流・谷田川に面する丘陵先端部に、全長約八三mの前方後方墳・大安場一号墳をはじめ、



蝦夷穴横穴墓群調査風景



13号横穴墓出土象嵌大刀



12号横穴墓出土方頭大刀

遺物は郡山市教育委員会所蔵

前期・中期の古墳・集落が濃密に分布する。これに対し後期に至ると、集落域・墓域は台地中央部の開析谷面へ比重が移る状況が読み取れる。こうした変化は可耕地の拡大を反映するものと捉えられる。同横穴墓群が造営された背景には、沖積地から開析谷面へ新たに進出し、それに伴い出現した有力成員層の出現が契機となった可能性がある。そして、出土した象嵌大刀や方頭大刀の性格を考えた時、在地の有力成員層が国家の支配体制に組み込まれる過程で、畿内で製作された大刀が与えられた状況が想定される。同横穴墓群は七世紀における郡山の歴史を検討する上で、貴重な情報を与えてくれる横穴と言えるだろう。

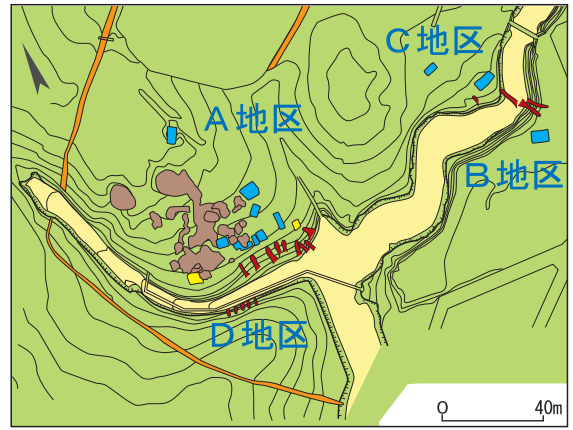
蝦夷穴横穴墓群は、福島県郡山市田村町に位置する。古くから開口していた十一基の横穴墓が知られていたが、平成十三年の調査の結果、新たに二基の横穴墓（十二十三号）が発見された。

調査成果の一つに、墓道と考えられる遺構の発見がある。横穴墓が穿たれた崖面と並行に伸びる溝跡は西端近くで直角に折れ、十三号横穴墓へと伸び、これが墓道であることを確認した。そして、同様の遺構の痕跡が幾つか見られ、数基の横穴墓で一つの墓道を共有し、それらがグループを成すことが明らかとなった。

十二十三号両横穴墓とも、玄室の両側壁や天井・床面で、岩盤を削った際の工具の痕跡が明瞭に確認できた。工具痕は基本的に左下がりの単位で共通し、右上から左下へ削られたことが分かる。手斧のような工具の工具痕は、いずれも刃先を岩盤に押し当てて引き削ったような痕跡で、表面を平



長砂渚遺跡は、阿字ヶ浦学区の沢田遺跡と同じ中世の塩づくりの遺跡です。2005年に発掘調査を実施し、釜屋跡2基、鹹水槽跡26基などが見つかりました。



馬渡埴輪製作遺跡は、粘土を採掘して、工房で埴輪を作り、乾燥させて窯で焼き上げるという、埴輪製作の一連の遺構を日本で初めて確認できた遺跡です。埴輪の生産は5世紀後半にC地区で始まり、ここで焼かれた埴輪は市内最大規模を誇る川子塚古墳に立てられたと推測されます。6世紀には、A・B・D地区の窯で埴輪が生産され、市内の笠谷古墳群や鉾の宮古墳群に立てられたと考えられます。上の写真の馬形埴輪は、窯で焼かれた後、古墳には運ばれず残されていたものです。この埴輪が、遺跡発見のきっかけとなりました。



大沼経塚群では、2基の経塚を調査しました。上の写真は、第2号経塚から出土した金銅製の経筒です。筒の側面には、天文10(1541)年の銘があります。中には、経文が納められていました。



向野A遺跡陥穴

向野A遺跡粘土採掘坑

向野遺跡群とは、当概地区の区画整理事業に伴い発掘調査を実施した8つの遺跡の総称です。発掘調査は、1990年から2004年まで段階的に実施し、2019年から再開しています。調査の結果、旧石器時代の石器や縄文時代草創期の陥穴、弥生時代の粘土採掘坑、古墳時代の馬渡埴輪製作遺跡と同じ時期の住居跡、中世の道路状遺構等が見つかりました。

約800年前

平安時代

0 1 km

阿字ヶ浦

ひたちなか市の遺跡7 (勝田三中)

勝田三中学区には、現在、53の遺跡がみつかっています。この中には、古墳に立てる埴輪を製作した馬渡埴輪製作遺跡や、古代の瓦を製作した原の寺瓦窯跡、鉄を生産した後谷津遺跡、中世の塩づくりをした長砂渚遺跡があります。また、中世の城跡の多良崎城跡やお経を納めた大沼経塚もあり、他の学区にはない遺跡が存在する地域です。

遺跡の発掘調査は、2020年までに64回実施しています。1965年から21回調査を行った馬渡埴輪製作遺跡では、窯跡20基、住居跡2基、工房跡12基、粘土を採掘した跡25ヶ所以上を確認しました。当遺跡は1969年に国の史跡に指定されました。1976年から4回調査を行った原の寺瓦窯跡では、古代の窯跡2基、工房跡5基等がみつかっています。上記の馬渡埴輪製作遺跡と原の寺瓦窯跡は、勝田第三中学校の生徒が埴輪や瓦をみつけたことがきっかけで、その存在が判明した遺跡です。

2020年までに発掘調査した住居跡の数
13基

2020年までに発掘調査した遺跡 (地図上の●印)

前渡小地区：原山遺跡、奥山瓦窯跡、長砂久保遺跡、原の寺瓦窯跡、大沼経塚、長砂渚遺跡、長砂西原遺跡、馬渡西板宮遺跡、馬渡埴輪製作遺跡、向野遺跡群 (馬渡遺跡、向野A遺跡、向野B遺跡、向野C遺跡、向野D遺跡、向野E遺跡、西谷津遺跡、西谷津北遺跡)、後谷津遺跡、馬渡中宿西遺跡、本郷東遺跡、本郷西遺跡、足崎西原遺跡、足崎天神山遺跡、西並木下遺跡



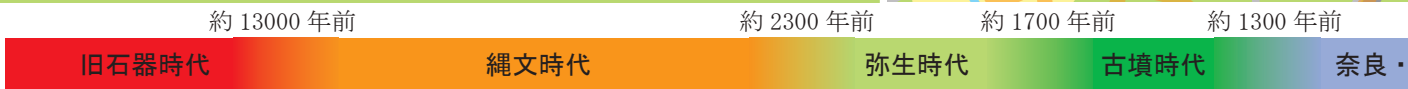
原の寺窯跡は、奈良・平安時代に役所等の建物の屋根瓦を生産した遺跡です。ここで作られた瓦は、水戸市の台渡里廃寺等に運ばれたことがわかっています。この遺跡の瓦の特徴として、「瓦作部」や「岡田」等の文字が刻まれた瓦が多数出土しています。

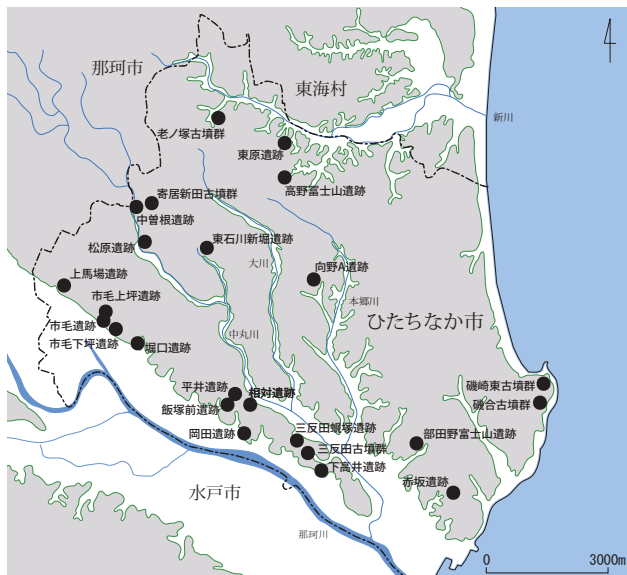
多良崎城跡は鎌倉時代末頃に築造された城と考えられています。

後谷津遺跡は、1988年に発掘調査を実施した奈良時代の製鉄遺跡です。ここで生産された鉄は、水戸市の台渡里廃寺等で釘などに加工され使用されていたと考えられます。



向野A遺跡からは、土偶が出土しました。土偶は下部を欠損しており、乳房と思われる突起2つがみられるだけのシンプルな形をしています。これは縄文時代早期の時期のもので、日本で最古の土偶の一つです。





向野A遺跡 8次調査

むかいの
向野A遺跡では、区画整理事業に伴う記録保存のため、およそ1万㎡の調査区にトレンチを11本設定し遺構の確認調査を行いました。その結果、2019年度の7次調査で確認された「鎌倉街道」の側溝と考えられる中世の溝跡の続きを、検出することができました。今回の調査では中世の遺物は確認されませんでした^{せんとうき}が、縄文時代の尖頭器が出土しています。

また、この側溝の南側では別の溝跡が2条確認されました。時期は不明ですが、溝の底は平ではなく、溝を掘ったときの痕跡が工具で掘り上げた形を残し穴状に確認されました。当時の人がどのようにして溝を掘り進めていったのか、様子がうかがえる貴重なものです。溝跡からは、縄文土器や土師器・須恵器が出土しています。



掘り込んだ痕跡が残る溝跡

二〇二〇年度は、ひたちなか市内において市内遺跡調査として三二件の試掘調査と二件の本調査を実施したほか、向野遺跡群の本調査を実施しました。

本調査について堀口遺跡では、遺構確認面からおよそ1mの深さがある中世の溝跡が確認され、一六世紀頃に位置づけられる、かわらけや瀬戸・美濃産志野鉄絵丸皿が出土しました。高野富士山遺跡では、住居跡が二基確認され、第一号住居跡からは墨書で「田依」と書かれた土師器皿や土師器甕の口縁部が出土しました。

試掘調査で行った東石川新堀遺跡では、縄文時代早期と考えられる尖底深鉢形土器の底部や無文の土器が出土しました。
(田中美零)



新しく始まりました「のぞき見、展示室」。ここでは、現在展示されているひたちなか市内から出土した遺物について、イラストで紹介していきます。

第一回目は、三反田蛭塚貝塚から出土したハート型土偶です。昭和二九年に行われた発掘調査で土を含んだ貝層から、ほぼ完形の状態出土しました。土偶の高さは16・3cmあり、その名前の通り顔はハート型で少し上を向き、隆起した大きな鼻がついています。また、肩が張り胸部から胴部にかけては細くくびれ、脚部は太く0字に開き自立することができます。このような特徴をもつハート型土偶は、縄文時代後期の北関東地方から福島県にかけて、堀ノ内式土器とともに出土することが多くあります。このハート型土偶は平成元年に市指定の文化財に登録されました。

現在埋文センターには、このハート型土偶の大きなパネルが「のぞく」ように置かれています。ちょっとタイトルにかけてみました…。ご来館の際にはぜひ一緒に写真を撮ってみてください。
(田中美零)



2020（令和2）年度市内遺跡調査一覧表

No.	遺跡名	回数	所在地	種別	時期	遺構・遺物
1	ほりぐちいせき 堀口遺跡	33 次	堀口	試掘	5 月	なし
2	あいたいせき 相対遺跡	4 次	金上	試掘	5 月	なし
3	こうやふじやまいせき 高野富士山遺跡	13 次	高野	試掘	6 月	住居跡 2 基(古墳, 平安)を確認。土師器片, 須恵器片が出土。
4	いちげしむつほいせき 市毛下坪遺跡	20 次	市毛	試掘	6 月	住居跡 4 基(時期不明), 溝跡 1 条(平安)を確認。土師器片が出土。
5	ほりぐちいせき 堀口遺跡	34 次	堀口	本調査	6 月	住居跡 1 基(古墳), 溝跡 1 条(中世), 土坑 3 基(時期不明), 地下式坑 1 基を確認。弥生土器, 土師器, 須恵器, 内耳土器, かわらけ, 陶器, 瓦, 石器, 鉄滓, 鉄製品, 人骨が出土。
6	みたんだこふんぐん 三反田古墳群	4 次	三反田	試掘	6 月	周溝 1 条(三反田 14 号墳に伴う), 溝跡 1 条(時期不明)を確認。出土遺物なし。
7	いそぎまひがしこふんぐん 磯崎東古墳群	13 次	磯崎	試掘	7 月	なし
8	なかぞおいせき 中曽根遺跡	2 次	田彦	試掘	7 月	溝跡 1 条(時期不明)を確認。出土遺物なし。
9	みたんだこふんぐん 三反田古墳群	5 次	三反田	試掘	7 月	三反田 14 号墳に伴う周溝 1 条確認。弥生土器片, 石器が出土。
10	ひらいせき 平井遺跡	4 次	金上	試掘	7 月	住居跡 2 基(平安), 土坑 3 基を確認。縄文土器片, 土師器, 須恵器片が出土。
11	こうやふじやまいせき 高野富士山遺跡	14 次	高野	本調査	8 月	住居跡 2 基(平安, 時期不明)を確認。土師器, 須恵器, 石器が出土。
12	まつばらいせき 松原遺跡	8 次	田彦	試掘	8 月	なし
13	おかだいせき 岡田遺跡	37 次	三反田	試掘	8 月	なし
14	ひがしはらいせき 東原遺跡	10 次	高野	試掘	8 月	住居跡 3 基(奈良・平安)を確認。土師器片, 須恵器片, 磁器片が出土。
15	ひがししかわにいほりいせき 東石川新堀遺跡	5 次	東石川	試掘	9 月	遺構なし。石器, 縄文土器片, 弥生土器片, 土師器片が出土。
16	ほりぐちいせき 堀口遺跡	35 次	堀口	試掘	9 月	土坑 1 基, ビット 1 基を確認。弥生土器片, 土師器片, 須恵器片, 内耳土器片が出土。
17	いちげかみつほいせき 市毛上坪遺跡	31 次	市毛	試掘	9 月	なし
18	へたのふじやまいせき 部田野富士山遺跡	1 次	部田野	試掘	9 月	なし
19	ひらいせき 平井遺跡	5 次	金上	試掘	9 月	住居跡 1 基(平安), 溝跡 1 条(時期不明)を確認。縄文土器片, 土師器片, 須恵器片, 陶器片, 土鍬片が出土。
20	おいのづかこふんぐん 老ノ塚古墳群	1 次	稲田	試掘	9 月	なし
21	おいのづかこふんぐん 老ノ塚古墳群	2 次	稲田	試掘	9 月	なし
22	かみほいせき 上馬場遺跡	6 次	津田	試掘	10 月	ビット 1 基を確認。出土遺物なし。
23	いづかまといせき 飯塚前遺跡	3 次	三反田	試掘	10 月	なし
24	ひらいせき 平井遺跡	6 次	金上	試掘	10 月	住居跡 1 基, 溝跡 1 条(時期不明)を確認。出土遺物なし。
25	いちげかみつほいせき 市毛上坪遺跡	32 次	市毛	試掘	11 月	なし
26	ひらいせき 平井遺跡	7 次	金上	試掘	11 月	住居跡 2 基(平安)を確認。縄文土器片, 須恵器片が出土。
27	よりいしんでんこふんぐん 寄居新田古墳群	5 次	田彦	試掘	11 月	なし
28	おかだいせき 岡田遺跡	38 次	三反田	試掘	12 月	ビット 31 基を確認。弥生土器片, 土師器片, 須恵器片, 砥石が出土。
29	いそぎいこふんぐん 磯合古墳群	5 次	磯崎	試掘	1 月	土坑 1 基を確認。出土遺物なし。
30	いちげいせき 市毛遺跡	2 次	市毛	試掘	1 月	住居跡 26 基(古墳～平安), 溝跡 1 条, 土坑 10 基, ビット 14 基を確認。縄文土器片, 弥生土器片, 土師器, 須恵器, 土鍬, 陶磁器, 石器が出土。
31	みたんだしづかいせき 三反田蛸塚遺跡	7 次	三反田	試掘	1 月	住居跡 2 基, 溝跡 1 条を確認。土師器片が出土。
32	あかさかいせき 赤坂遺跡	4 次	鶴代	試掘	2 月	溝跡 1 条を確認。出土遺物なし。
33	いちげいせき 市毛遺跡	3 次	市毛	試掘	2 月	住居跡 13 基を確認。縄文土器片, 弥生土器片, 土師器片, 須恵器片, 陶磁器片, 銅銭が出土。
34	いちげかみつほいせき 市毛上坪遺跡	33 次	市毛	試掘	2 月	住居跡 11 基, 溝跡 1 条, 土坑 3 基を確認。弥生土器片, 土師器片, 須恵器片が出土。
35	ほりぐちいせき 堀口遺跡	36 次	堀口	試掘	2 月	住居跡 28 基(古墳～平安), 土坑 38 基, 溝跡 7 条を確認。弥生土器片, 土師器, 須恵器, 陶磁器, 瓦質土器, 瓦, 石器, 砥石, 石臼, 鉄滓, 艦砲弾片が出土。
36	いちげいせき 市毛遺跡	4 次	市毛	試掘	3 月	住居跡 4 基, 土坑 1 基, 溝跡 1 条を確認。縄文土器片, 土師器, 須恵器片, 石器, 陶磁器が出土。
	むかしのえいせき 向野 A 遺跡	8 次	馬渡	本調査	10 月	溝跡 3 条を確認(7 次調査の中世溝跡 1 条, 時期不明 2 条)。石器, 須恵器片が出土。

四か月にわたる我孫子市湖北台遺跡群こほくだいの調査は、住居跡四分法による覆土分層調査や竈かまどの構造調査など、その後の発掘調査に思想的にも技術的にも稔りの多い調査の実践であった。そのほか個人的には発掘調査に於ける参加者への段取りを学んだことも有意義だった。

我々が調査した湖北台遺跡群と隣接したエリア外に、一九七八年千葉県立湖北高校が開校した。そこには千葉県文化財センターの調査によって下総国相馬郡の正倉院が発見された。その調査は我々の調査から一〇年後だった。

その後、一九六八年三月には日立市金井戸遺跡かないどの調査（県内編は別稿）に参加し、五月二五日から二九日まで静岡県沼津市目黒身遺跡めくろみの調査に参加した。

この遺跡は沼津市出身の同級生宮崎一郎君みやざきいちろうの誘いで参加したが、小学校の改築に伴う調査で、弥生時代の集落遺跡だった。私は関東ローム層上での調査と全く異なる地層での調査に戸惑った。まづ泥土の中から遺構を検出するのだが、最初は全く判別できなかった。当遺跡からは弥生時代後期の住居跡や方形周溝墓などが検出されたと記憶している。

調査は沼津学園の小野真一先生おのしんいちが団長で、大学同期の佐藤政則君さとうまさのりも参加した。毎日が泥だらけの調査だったが、関東以外での調査は有意義なものだった。

沼津から帰京して一週間も経たない六月五日、

私的茨城考古学外史一遺跡・人 出会いと別れ一

第3回 発掘三昧への道 県外編2



千葉県八街市滝台遺跡調査風景



瓦吹 堅

埼玉県桶川市西小遺跡にししょうの調査に参加した。この調査も思い出深く、小学校改築に伴う桶川市教育委員会主催の調査で、県文化財保護課柳田敏司やなぎだとしさんが指導委員。遺跡は縄文時代中期と古墳時代中期の集落遺跡だった。調査に参加したのは同期の今泉泰之いまいずみやすゆき・昼間孝次君ひるまこうじや一学年後輩の高林均たかはやしひとし・斎藤和子君さいとうわこ達、さらに埼玉大学考古学研究会公員。土器埋設炉をもつ加曾利E1期の住居跡の調査中、埼玉県遺跡調査会の増田逸郎ますだいつろうはじめ下村克彦しもむらかつひこ・鈴木重義すずきしげよし先輩一行が現場視察に來られた。我々は先輩方から調査について種々指導を受けたが、その一つがセクションベルトの幅で、鈴木先輩から広すぎるときつく指摘された。

宿舎は遺跡近くの商店（薬局）の二階で、朝夕そこで食事をし、昼食は現場で弁当を食べた。四〇代の奥さんが宿泊した我々四〜五名の学生のために食事を準備してくれたが、室内犬を飼っていた時々食器に犬の毛が付いていたことがあった。その頃、現場見学に來た高校一年生の新井和之君あらいひさゆきに初めてあった。新井君のことで一番記憶に残っているのは、その頃出始めたコココーラ五〇〇ml瓶の一気に呑み得意としたこと。彼はその後国士館大学に入学し、流山市などの遺跡をともに調査し、現在でも交流は続いている。調査の最終日、初期竈をもつ住居跡の遺構測量が遅れ、夕暮れの中で声を掛けながらマッチを擦り、その灯を頼りに測量したことも懐かしい思い出である。

同年六月には東海村御所内遺跡ごしょうちの調査に参加（県

内編は別稿)、さらに七月一日から二〇日まで千葉
 県八街市滝台遺跡の調査に参加した。調査主体は
 立正大学丸子亘先生で、他校からの参加者は私一
 人だった。調査主任は渡邊智信氏、さらに同学年
 の野尻侃・河地俊幸・福岡元君等も参加した。遺構
 は一辺五〜六mの北竈の鍛冶工房をもつ堅穴住居
 跡で、羽口や製鉄炉なども検出され、鍛造剥片も
 磁石で多く採取した。調査中、丸子団長は立正大
 学の久保常春先生や資源研の輪島誠一先生を招聘
 して指導を受けていた。先生方が指導に来た時に
 は、現在国登録文化財に指定されている「八鶴亭」
 で懇親会が開かれ、我々学生もお相伴に与った。
 もっとも忘れられないのは、丸子団長がある晩近
 在の農家から滝台遺跡から採集したという銅印を
 借りてきたことである。それは「山邊郡印」で、我々
 は遺跡周辺が古代上総国山邊郡であり、この遺跡
 は郡家に関連するのではないかと興奮した。その
 夜私はその銅印を実測した。その後の一九七一年、
 銅印は重文指定された。一九九二年から二年間、
 国立歴史民俗博物館(当時)の「非文献資料の基
 礎的研究―古印―」の館外調査員に委嘱され、研
 究会の折に平川南氏に発見の顛末などを記録した
 その当時の調査ノートを見せると、平川氏は驚い
 ていた。

西小遺跡で指導を受けた柳田敏司氏は二〇一
 一年八月、増田逸朗氏は二〇〇〇年八月、滝台遺
 跡でご一緒した丸子亘先生は一九八六年七月に
 それぞれ鬼籍に入られた。中でも増田先輩は、

一九七七年四月に茨城県教育財団調査課が設置さ
 れた当初、埼玉県埋蔵文化財調査事業団に勤務し
 ておられ、調査備品などについて種々アドバイス
 をいただいた。また、個人的には祭祀考古学会で
 福島県建錐山にご一緒したこともあった。当時を
 思い出しても次期リーダーの突然の死は、この業
 界にとっても極めて残念で悲しいことだ。



千葉県八街市滝台遺跡 (1968年7月)
 (左: 丸子先生 右: 輪島先生)



埋文センター敷地内新展示物 (堀口地内石塔移築 2021年1月7日)

特別展 Since 1980

虎塚古墳壁画 公開40周年

—公開と保存への挑戦—



日昨令和2年10月25日(日) から令和3年5月9日(日)
午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日:月曜日(月曜日が休日の場合は翌日) **入場無料**

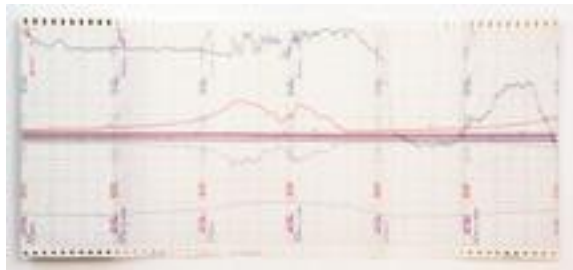
場所:ひたちなか市理蔵文化財調査センター
〒312-0011 茨城県ひたちなか市巾着3499
電話:029-276-8311
(公財) ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

特別展 二〇二〇年から四〇年前の一九八〇(昭和五五)年一〇月二五日、虎塚古墳壁画の公開施設が完成し、一般公開が始まりました。特別展では、公開開始四〇周年を記念して、壁画確認から公開までの経過と、現在も続く「保存と公開」について、写真や資料などを展示して紹介しました。

展示では、「虎塚古墳を掘る」、「壁画の保存と公開へ」、「虎塚古墳壁画を守る」、「未来へ」という四つのテーマを設けました。

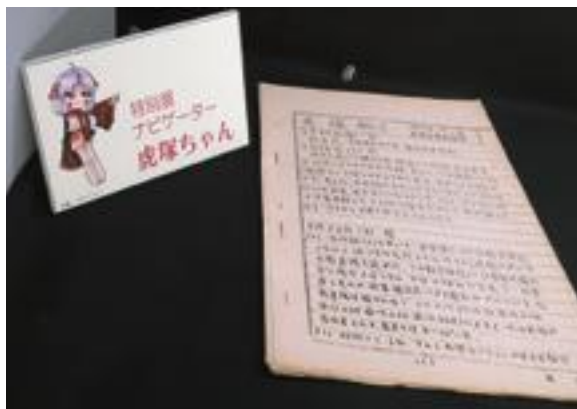


展示の様子



石室・観察室・外気の温湿度記録用紙

2004年4月11日:壁画公開時の温湿度記録。真ん中の直線は、公開時でも石室内の温湿度変化がないことを示しています。



展示物では、初公開として壁画発見時の調査日誌や当時使用していた温湿度記録機器、二〇二一年二月まで記録していた石室内の温湿度の記録紙などを紹介しました。展示した温湿度の記録紙は壁画公開時のもので、この記録からは公開しても石室内の温湿度に変化がないことや、中央の直線の上の赤線が観察室の温度、下の黒線が観察室の湿度ですが、公開が終了し観察室の扉を閉鎖すると自然に安定した数値に戻るなどが判ります。

「未来へ」のテーマでも紹介しましたが、今回の展示では新しい試みとして、虎塚古墳壁画の文様を「擬人化」したキャラクターを作成しているヨスミナミさんにご協力いただき、そのキャラクターを解説や立て看板に使用しました。



ヨスミナミ

た。ヨスミナミさんの古墳に興味を持ったきっかけや、キャラクター誕生の経緯などを紹介します。

こんにちは。古墳にコーファン協会茨城支部長のヨスミナミです。昨年一〇月から開かれている企画展に、虎塚古墳擬人化キャラクター、通称「虎塚ちゃん」のイラストを描かせていただきました。

古墳にコーファン協会とは、古墳シンガールのまわりこぶんが会長を務める「古墳をゆるく愛でる」をモットーに活動している協会です。



キャラクターと虎塚古墳壁画との比較

普段はTwitterにて茨城の古墳情報や自分の墳活（古墳巡りをすること）の様子を発信しています。そのほか「趣味としてTwitter開設前から描いていた古墳擬人化イラストをアップしています。今まで全国各地の古墳たちを擬人化してきましたが、実は初めて擬人化した古墳はこの虎塚古墳なのです。ここでは虎塚ちゃんが誕生した経緯についてお話ししたいと思います！

そもそも、私が古墳と出会ったきっかけは、

アニメ「古墳ギャルの「フイー」でした。このアニメは名前の通り、古墳の「フイーちゃん」が主人公であるギャグアニメで、その独特な世界観に当時の私はハマりました。そして古墳とは実際どんなものなのだろうという興味が湧き、県内の古墳巡りをしていくうちに私は古墳に染まっていきました。

私が初めて古墳を擬人化したのは二〇一七年のことでした。幼いころから絵を描くのが好きで、ある日、いつものように絵を描いていた時、手元のすぐ近くに虎塚古墳のパンフレットが置いてありました。その中の壁画の図を眺めていたら、壁画の文様を取り入れた衣装のデザイン案が頭に浮かびました。すぐにその衣装を着た創作キャラクターのイラストを描きました。これが虎塚ちゃんの原型です。その後、虎塚古墳らしいイメージの少女にデザインを直し、現在の虎塚ちゃんが誕生しました。

まさか数年後に自分が生み出したキャラクターが等身大パネルになり、ひたひたな市埋蔵文化財調査センターに飾っていただけるなんて思っていませんでした！ありがとうございます！このキャラクターをきっかけに古墳に興味を持つ方が増えればいいなと思っています。

虎塚ちゃんをどうぞよろしくお願ひします！



26 コスモス

皆さんはどの花を見ると秋を感じますか。私は今回紹介するコスモス（秋桜）です。コスモスはキク科コスモス属の一年草です。もともとはメキシコ原産で、日本には幕末頃に持ち込まれ、明治時代に全国に広がったとされます。和名「秋桜」の由来は、「コスモスの花が秋に咲くこと、また花びらが桜を連想させることから名付けられたとされます。草丈は1〜2mで糸のように細く裂けた葉をしています。草丈が高いわりに茎は細く華奢です。その華奢な茎の先に直径6〜10cm程度の花を咲かせます。花びらは通常8枚で、ピンクや白など淡く優しい色の花を咲かせます。

今年は新型コロナウイルスの影響で、予定していたイベントが次々と中止となってしまいました。また、仕事仲間の計報もあり、例年になく寂しい秋となりました。秋風にそよぐコスモスも、今年はなんだか寂しげです。（稲田健一）



2020.09.30

文 埋 センターの 日 々 2020 後期

10月

1 部田野富士山遺跡試掘調査終了
2 老ノ塚古墳群試掘調査終了
3 向野A遺跡本調査開始
4 上馬場遺跡試掘調査
5 上馬場遺跡試掘調査
6 上馬場遺跡試掘調査
7 上馬場遺跡試掘調査
8 上馬場遺跡試掘調査
9 上馬場遺跡試掘調査
10 上馬場遺跡試掘調査
11 上馬場遺跡試掘調査
12 上馬場遺跡試掘調査
13 上馬場遺跡試掘調査
14 上馬場遺跡試掘調査
15 上馬場遺跡試掘調査
16 上馬場遺跡試掘調査
17 上馬場遺跡試掘調査
18 上馬場遺跡試掘調査
19 上馬場遺跡試掘調査
20 上馬場遺跡試掘調査
21 上馬場遺跡試掘調査
22 上馬場遺跡試掘調査
23 上馬場遺跡試掘調査
24 上馬場遺跡試掘調査
25 上馬場遺跡試掘調査
26 上馬場遺跡試掘調査
27 上馬場遺跡試掘調査
28 上馬場遺跡試掘調査
29 上馬場遺跡試掘調査
30 上馬場遺跡試掘調査
31 上馬場遺跡試掘調査
32 上馬場遺跡試掘調査
33 上馬場遺跡試掘調査
34 上馬場遺跡試掘調査
35 上馬場遺跡試掘調査
36 上馬場遺跡試掘調査
37 上馬場遺跡試掘調査
38 上馬場遺跡試掘調査
39 上馬場遺跡試掘調査
40 上馬場遺跡試掘調査
41 上馬場遺跡試掘調査
42 上馬場遺跡試掘調査
43 上馬場遺跡試掘調査
44 上馬場遺跡試掘調査
45 上馬場遺跡試掘調査
46 上馬場遺跡試掘調査
47 上馬場遺跡試掘調査
48 上馬場遺跡試掘調査
49 上馬場遺跡試掘調査
50 上馬場遺跡試掘調査
51 上馬場遺跡試掘調査
52 上馬場遺跡試掘調査
53 上馬場遺跡試掘調査
54 上馬場遺跡試掘調査
55 上馬場遺跡試掘調査
56 上馬場遺跡試掘調査
57 上馬場遺跡試掘調査
58 上馬場遺跡試掘調査
59 上馬場遺跡試掘調査
60 上馬場遺跡試掘調査
61 上馬場遺跡試掘調査
62 上馬場遺跡試掘調査
63 上馬場遺跡試掘調査
64 上馬場遺跡試掘調査
65 上馬場遺跡試掘調査
66 上馬場遺跡試掘調査
67 上馬場遺跡試掘調査
68 上馬場遺跡試掘調査
69 上馬場遺跡試掘調査
70 上馬場遺跡試掘調査
71 上馬場遺跡試掘調査
72 上馬場遺跡試掘調査
73 上馬場遺跡試掘調査
74 上馬場遺跡試掘調査
75 上馬場遺跡試掘調査
76 上馬場遺跡試掘調査
77 上馬場遺跡試掘調査
78 上馬場遺跡試掘調査
79 上馬場遺跡試掘調査
80 上馬場遺跡試掘調査
81 上馬場遺跡試掘調査
82 上馬場遺跡試掘調査
83 上馬場遺跡試掘調査
84 上馬場遺跡試掘調査
85 上馬場遺跡試掘調査
86 上馬場遺跡試掘調査
87 上馬場遺跡試掘調査
88 上馬場遺跡試掘調査
89 上馬場遺跡試掘調査
90 上馬場遺跡試掘調査
91 上馬場遺跡試掘調査
92 上馬場遺跡試掘調査
93 上馬場遺跡試掘調査
94 上馬場遺跡試掘調査
95 上馬場遺跡試掘調査
96 上馬場遺跡試掘調査
97 上馬場遺跡試掘調査
98 上馬場遺跡試掘調査
99 上馬場遺跡試掘調査
100 上馬場遺跡試掘調査



13-20 飯塚前遺跡試掘調査 / 18
ワンケースミュージアム51終了
20-22 平井遺跡試掘調査 / 25
特別展「虎塚古墳壁面画公開40周年」公開と保存への挑戦 / 開始
27-30 市毛上坪遺跡試掘調査 /
30 虎塚古墳秋期一般公開(新型コロナウィルスの影響により中止) / 31埋文だより『第53号』刊行
11月

4 中根小学校1年生どんぐり拾い



4-5 平井遺跡試掘調査 / 8ふるさと考古学特別版③「縄文時代ってなんだ!2」(講師・堀江武史氏)



二 中根小学校特別支援学級1 / 6年生見学 / 10-17 寄居新田古墳群試掘調査 / 12 磯崎小学校6年生見学



26 小屋亮太氏(筑波大学)資料調査(武田西郷遺跡砥石ほか)
12月
4 向野A遺跡本調査終了 / 5 博物館実習施設見学(茨城キリスト教大学)

2-15 岡田遺跡試掘調査

1月

5-9 磯合古墳群試掘調査 / 6 茨城県立歴史館より資料返却 / 13-26 市毛遺跡試掘調査 / 14 FMぱるるん出演(特別展の紹介) / 19-29 三反田蛭塚遺跡試掘調査

2月

2-5 市毛遺跡試掘調査 / 2-9 赤坂遺跡試掘調査 / 16-24 市毛上坪遺跡試掘調査 / 18 堀口遺跡試掘調査開始 / 26 那珂市菅谷東小学校6年生見学 / 28 日本国史学会見学

3月

3-12 市毛遺跡試掘調査 / 12 堀口遺跡試掘調査終了 / 14 歴史探訪ウォーク / 16 千葉市より資料返却 / 23 取手市久賀公民館見学 / 31埋文だより『第54号』刊行

入館者状況 (2020.10.1. ~ 2021.3.31)

月	開館日数	個人		団体		計
		(人)	(団体)	(人)	(団体)	
10月	27	200	1 (0)	20	(0)	220
11月	25	220	5 (3)	81	(59)	301
12月	24	134	2 (0)	46	(0)	180
1月	24	81	0 (0)	0	(0)	81
2月	24	134	2 (1)	112	(74)	246
3月	26	136	1 (0)	20	(0)	156
合計	150	905	11 (4)	279	(133)	1184

○内は学校数

ひたちなか市埋蔵文化財調査センター及び(公財)ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社が開催する事業は『市報ひたちなか』及び下記のホームページでお知らせします。
<http://hitachinaka-culturehall.jp/news-cat/kokuchi/>

編集後記の 虎の子

二〇〇二年、向野遺跡群西谷津遺跡の調査をしていると、散歩で通りかかった女性が声をかけてきた。私はその時の調査担当ではないので、直接そのやり取りを見てはいないが、その後彼女は発掘調査補助員として私たちの仲間となった。彼女はもともと考古学とは全く関係のない理系女子「リケジョ」(本人は違うというかもしれないが)で、こんな偶然からこれまでとは違う人生を歩み始める。

その後は市内の発掘調査を始め、茨城県の発掘調査にも参加するほど発掘に専念し、その後は当埋文センターの嘱託職員となり、調査だけでなく、展示や講座、図書や収蔵遺物の管理といった、あらゆる仕事に携わることになる。現在の埋文センターの展示や管理システムは彼女が構築したと言っても過言ではない。だが、この管理システムがもう少しで完成という時、彼女は病に冒され、この世から旅立ってしまった。あまりにも突然の別れであった。

彼女の構築したシステムはこれから先もずっと埋文センターを支え続け、その成果は生き続けていく。その証拠に、今日もまた、彼女の仕事を引き継いだ女性がパソコンに向かって叫んでいる。「菊池さん、おかげでもいいから出てきて!この仕事教えて!」。いつまでも頼られっぱなしだね、菊池さん。



ひたちなか埋文だより 第54号

編集 公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

2021年3月31日発行

発行 ひたちなか市埋蔵文化財調査センター

〒312-0011 茨城県ひたちなか市中根3499 ☎029-276-8311 FAX 029-276-3699

印刷 株式会社 高野高速印刷

